

記録的な大雨と集中豪雨

町民生活・産業に大きな影響



(神岬町 町道神岬会館通り線)



(神岬町 征泊地区)



(西河町 国道229号)

※表1 7月～9月の降水量観測記録

月 日	降水量の記録	観測地点
7月14日	◆日最大10分間降水量 11.0ミリ (観測史上1位)	美国町川上地区 ※1
	◆日最大1時間降水量 33.0ミリ (観測史上2位)	
8月14日	◆日降水量 122.5ミリ (観測史上2位)	美国町川上地区
8月20日	◆1時間降水量 68.0ミリ (午前7時から)	余別川サンクチュアリセンター地先 ※2
9月2日	◆日降水量 177.0ミリ (観測史上1位)	美国町川上地区
	◆日最大10分間降水量 8.0ミリ (観測史上1位)	

※1 気象庁地域気象観測システム「美国アメダス」
 ※2 北海道小樽建設管理部所管施設「余別川テレメータ」
 (注)「降水量の記録(美国アメダス)」は、気象庁「気象統計情報」による各月の観測史上記録。
 9月2日の「日降水量177.0ミリ」は、年間を通じての「日降水量」としても史上1位。

7月に入り停滞前線の影響と台風12号の接近により、9月1日の降り始めから6日までの累計降水量は、アメダス観測で38・5ミリ。同月20日までに427ミリを記録するなど、9月の平均降水量203・6ミリと比較すると記録的な大雨となりました。(※表1参照)

7月から9月の大雨と集中豪雨は、余別管内で大きな被害をもたらしました。神岬町征泊地区では同じ沢からの土石流が2度にわたり国道に流れ出し、また、町道神岬会館通り線も流出した土砂により路面が覆われるなど、それぞれ通行規制が行われました。



▲土のうを積む消防団員(余別町)



▲土砂崩れにより寸断された国道229号(西河町)

このほかにも町内12カ所で、小規模な土砂崩れや、小河川や排水路が溢れ出したため、地域の消防団や消防職員等が出動し土のうを積むなどの対応により浸水被害の拡大防止に当たりました。

西河地区が一時孤立

この雨の影響により、9月3日午前10時過ぎ、西河町内の、国道229号の3カ所で土砂崩れが発生し、国道は野塚町から山西河地区までの約4・4km区間が通行止めとなりました。

町では3日、午前10時に災害対策本部を設置し、情報収集と町内への広報活動、同区間の通行止により孤立した町の住民と

気象庁のアメダスなどの積丹町内での観測記録では、7月から9月の観測史上1位の記録を更新した雨量の様子のはつきりと判

4回の記録的な豪雨 余別管内に被害集中

7月14日から8月、9月と積丹町を襲った大雨や局地豪雨。崖崩れや国道229号の通行止めなど町民の生活を脅かす事態や、収穫期を迎えた農作物や観光施設の被害など、大きな影響を与えています。



▲崩落した神威岬遊歩道の現地調査

の連絡に当たったほか、小樽開発建設部や道後志総合振興局、北電、NTTなどの関係機関と連携して、一刻も早い国道の復旧作業に当りました。

このほか、この大雨により美国町小泊で人家裏山が崩れるなどの被害がありました。幸い人的被害や住家等への大きな被害はありませんでした。

神威岬遊歩道の一部が崩落

大雨の影響は町の産業にも影響を与えています。

道央圏や当町の岬観光の重要な拠点となっている神威岬自然公園では、3日朝の点検で遊歩道が灯台手前の150m付近で約18メートルにわたり大きく崩落しているのが確認されたため、直ちに通行止の措置がとられま

国・道に早急な復旧対策を要望中

9月22日現在、町と道の被害



▲収穫が遅れているジャガイモ畑

土地の管理者である第一管区海上保安本部など関係機関が現地の確認と復旧に向けた協議を行った結果、大規模な復旧対策を必要とするとの結論に達し、現在、同部において本格的な復旧工法及び復旧対策の検討を進めています。今シーズン中の通行止め解除は難しい見通しです。

農業では、雨が多いため、畑がぬかるみ、収穫期を迎えたジャガイモの収穫ができなくなっており、例年より出荷の遅れや品質の劣化など、今後の影響が心配されています。

総額（国の機関を除く）は、約1億3,200万円にのぼり、調査が進むにつれ被害額は増えることが見込まれます。

また、9月の大雨による町の災害対策費用は786万円と見込まれ、7月からの2度の補正予算を合わせると2,267万円となり、町の財政に重くのしかかっています。

町では北海道や石狩森林管理署に対し治山事業による早期の対策を、また、小樽開発建設部に対しては、国道229号の通行の安全確保対策を要望しており、一部の箇所についてはすでに工事が始まっています。

また、民主党や自由民主党の懇談会において、松井町長から後志管内で最も大きい積丹町における局地的な豪雨災害の復旧対策について、財政支援や複数の関係機関に及ぶ復旧対策の円滑な実施を強く要望しました。

災害に対する心構えを

町では、昨年7月29日の大雨による国道通行止、余別川や美国川の氾濫危険水位による住民避難勧告を教訓に、このたびの台風12号については、大雨警戒

情報を受け、余別支所・入舸支所に夜間巡回職員を配置し備えました。

また、1時間に68ミリという異常な局地的豪雨に見まわれた余別川の氾濫が心配されましたが、昨年の余別小学校の屋根冠水を教訓にした対策がとられて

いたため、被害に至りませんでした。

いつ発生するかわからない災害は、町民の皆さん一人ひとりの心構えと準備も大切なことです。

災害に対する普段からの心構えをお願いします。

真駒内自衛隊第11特科隊

積丹町内の孤立した集落への救援ルートを探る訓練実施

去る、8月22日・23日の2日間、積丹町での大規模災害派遣要請に備える陸上自衛隊の「^{せいち}生地訓練」が行われました。

この訓練は、各集落の位置や状況、迂回可能路やヘリポート用地などを平常時に把握しておくことにより、緊急災害派遣要請があった場合、先遣調査隊などがより迅速に機動的な隊員の行動や必要な資器材の救援ができるよう行われたものです。

積丹町を隊区とする第11特科隊第3中隊（藤本裕介中隊長）の隊員38人は、2日間にわたり町内の集落や日常利用しない農道や林道のほか、自衛隊による踏破が可能な山道のルートを踏査で探るとともに、ヘリポート用地や通信の状況などについての調査を行いました。

